

地域の子どもを対象とした スポーツ・運動遊びプロジェクト

【メンバー】

【学生】 小玉 咲和/佐藤 優衣/島田 ほのか/鈴木 実花/永岡 雪乃
【担当教員】 吉村 功

【背景】

現在、子どもたちの運動能力の低下が問題となっている。そこで、我々は、実際に学齢期の子どもを対象としたスポーツ教室に参加し、子どもたちの様子や運動能力の実態把握に努めた。同時に、児童にどのような課題があるのかを探り、児童が楽しめるゲームを考案・実施することによって課題を改善しようと考えた。

【目的】

前期は、小学校3・4年生を対象としたスポーツ教室「Do遊パーク」の全10回の活動に参加した。その第1回～第6回の活動やアンケートを通して、子ども達が「ボールの落下地点を予測すること（＝空間認知能力）が困難」という課題を見出し、第7回、第9回目の活動において、空間認知能力を向上させることを目的としてゲームを実施した。

また、後期は、小学校1・2年生を対象とした「あそびすと」の全10回の活動に参加した。中学年で空間認知能力をより高めさせるためには、低学年のうちからボール遊びに親しみながら空間認知能力を養うゲームをする必要があると考え、これを目的とした。

【概要】

北海道教育大学函館校内に設立されている団体『SPORTS北海道』が定期的開催しているスポーツ教室に参加し、子どもの運動能力や協調性等の様々な観点から課題を見出し、子どもが楽しみながら解決できるようなゲームを考案、実施する。

【プロセスと成果】

前期10回のうちの第7回目と第9回目の活動とその成果については以下の通りである。

前期第7回 「フラフープキャッチ」

目的：ボールの落下地点をとらえ、その場に移動できる。

ルール：フラフープの中に入り、投げられたボール（3種類）を、コート内から出ないようにお腹とフラフープの間に正面から通す。1チーム2～3人で行い、通る・通らないにかかわらず1回のチャレンジごとにコート外にいる次の子どもに交代する。フラフープに通したボールの大きさが得点が変わり、得点の多かったチームの勝利。

前期第9回 「ポンポンリレー」

目的：道具を使ってボールの落下地点をとらえることができる。

ルール：1チーム6人で行い、バトミントンラケットの上でボールをバウンドさせながら歩き、次の人に交代する。ボールを落としたり、落とした所から再スタートする。次の人に渡すときは、ボールを一度手で止めてから渡す。より早く運べたチームの勝利。

前期の2つのゲームを実施したことで、子どもの空間認知能力が高まったということを明確に評価することは難しかったが、得られた成果としては子どもたちが楽しそうにゲームに参加していたことが挙げられる。

後期10回のうちの第7回目と第8回目、第9回目の活動とその成果については、以下の通りである。

後期第7回 「ボールの配達屋さん」

目的：投げる、蹴る等の技術を使わずにボールに触れる

ルール：1チーム7～8人で行い、2人1組でビニール袋の4つ角を持ち、コーンをジグザグに進み、ボールを乗せて同じ道を戻って、次のペアと交代する。落ちたボールは拾えず、一番早く全部運び終えたチームの勝利。

後期第8回目 「走って玉入れ」

目的：ボールを目標に向かって投げる

ルール：1チーム11人で行い、フープの中にある自分のチームのボールを1人2個まで持ち、動くかご（大学生が背負って、円のコート内で動き回る）の中にボールを入れる。この時、かごに入らずに円の中にボールが入ってしまったら拾ってはいけない。時間内に多く入れたチームの勝利。

後期第9回目 「あっちこっちドッチ」

目的：ボールを楽しむ

ルール：1チーム5～6人で行い、4チーム同時に対抗。コートは4面でボールは3つ使い、当たったらコートの外に出て、外野に行く。外野の子供（他3チームのどのチームの子供に当ててもいい）を当てたら内野に戻れる。だが、頭に当たった場合は、セーフ。

後期3つのゲームを通しての成果としては、活動を通して子どもたちが楽しくボール遊びに取り組みしており、ボールに親しみながら空間認知能力を高めることが出来た。

【総括と反省・今後の課題】

前期は、空間認知能力を楽しみながら高められるゲームを考案し、実施することが出来た。

今後の課題として、子どもの変化や明確な成果が得られなかったため、成果を明確に把握できる取り組みを行うことが挙げられた。

後期は、活動を通して子ども達が楽しくボール遊びに取り組みしており、ボールに親しみながら段階的に空間認知能力を高めることが出来ていた。

今後の課題として、グループリーダーやチームリーダーとして子どもと接する中で、しっかりと子どもに説明を聞いてもらうことができず、説明内容を簡潔にすることや、子どもの注意を引き付けて話せるような工夫が必要だったということや、ルールにおける問題点が目立ったため、あらゆる想定をするべきだったということが挙げられた。

また、活動を通して、目的である「子どもが楽しみながら活動する」ことができているように感じた。



【地域からの評価】

活動を通して、以下の意見をいただいた。

- ・「子供たちが自ら考えることで協調性を養うようなゲームを行っていた。子どもたちが楽しみながら友達との付き合い方や用具の使い方を知れるような内容になっている。」
- ・「ゲームを通して、協調性を学ぶ、遊び心を活かした学習がとても良いと感じた」
- ・「知の教育だけでなく、体を動かすための教育も考えられている」
- ・「成果が分かりにくいと感じた」
- ・「危険予測、想定されることをよく考えているなと感じた」

【その他】

■年間スケジュール

前期	5月10日	第 1 回
	5月17日	第 2 回
	5月24日	第 3 回
	5月31日	第 4 回
	6月 7日	第 5 回
	6月21日	第 6 回
	6月28日	第 7 回「フラフープキャッチ」
	7月 5日	第 8 回
	7月12日	第 9 回「ポンポンリレー」
	7月19日	第 10 回
後期	10月 2日	第 1 回
	10月 9日	第 2 回
	10月16日	第 3 回
	10月23日	第 4 回
	10月30日	第 5 回
	11月13日	第 6 回
	11月20日	第 7 回「ボールの配達屋さん」
	11月27日	第 8 回「走って玉入れ」
	12月 4日	第 9 回「あっちこっちドッジ」
	12月11日	第 10 回